

活用事例	<b>4</b> 授業中に地震・火災が発生し、避難経路を変更しなければならなくなった場合の避難訓練 <b>【特色】</b> 運動場から体育館への避難場所の変更、消防署と連携した煙体験の実施		
学校名	田布施町立城南小学校		
日時	平成25年11月7日(木)	3時間目	
場所	体育館及び多目的教室	参加者	児童・教職員及び消防署職員

## 1 訓練のねらい

- (1) 地震・火災発生に対応する基本行動を理解する。
- (2) 非常時の避難経路を知らせ、安全敏速に避難できるようにする。
- (3) 煙体験をすることで、避難に必要な知識と煙の怖さを知る。

## 2 訓練の概要

- (1) 想定  
地震の想定規模を平成13年3月24日に発生した芸予地震（震度4程度）とし、地震の後、職員室付近より出火。地震により運動場に断裂が走り、校舎倒壊の危険性もあるため、児童は体育館に避難という想定で訓練を計画した。
- (2) 想定理由  
従来の避難訓練（火災・不審者対応）では運動場が避難場所となっており、児童はその避難経路にも慣れているが、今回は体育館への避難という初めての体験である。  
非常口が使えないため、狭い階段で複数学年が鉢合わせすることも十分に考えられる状況を作りだした。



- (3) 地震発生から避難完了まで  
事前の会議で、階段使用時の注意や学年間の優先順位、事前通報事項の共通理解などを十分に行い、訓練に臨んだ。

### 地震発生

放送で地震発生を通告し、余震の可能性があるので、児童は机の下で避難姿勢を維持。担任は窓を開けるとともに、出入口を確保した。



### 火災発生・避難開始・通報

放送で、地震による火災が発生したこと、体育館に避難することを指示し避難開始。同時に、事務職員が119番への通報訓練を実施した。  
全員が避難完了し、消防署員と校長から訓練についての講話を行った。



「時間については標準であり、無言で行動できていることが非常に優秀である。」  
(消防署員)

「一応体育館に避難は完了したが、地震で体育館自体が崩落する可能性もある。常に先生の指示を聞くこと、子ども同士でも助け合うこと、そして、自分自身も考えて行動することが大切である。」

(校長)

### 煙体験

事前に発煙機を使って大量の煙を多目的室内に充満させる。煙自体は無害なもので、ほんのりバニラの香がつけてある。

想像より大量の煙が発生し、廊下まで煙が充満することとなったが、かえってそれが臨場感を高めたともいえる。



特別教室一杯に立ちこめる煙に、子ども達きを感じながら体験をしていた。

今回は無害な煙ではあるが、視界が全くきかなくなることや、どうしても煙を吸い込んでしまうことなどを実感していた。



## 3 訓練の成果と課題

### 【成果】

- 1 非常口が使えず、通常階段での避難を体験する。
- 2 煙体験をすることで、煙の怖さを擬似的に体験する。
- 3 実際に119番通報する通報訓練も同時に実施することで、緊張時における冷静な通報の難しさを体験する。(事務主任)

◇ 以上、大きく3つの柱で計画実施した避難訓練であったが、初めて体験することが多く、緊張感をもった訓練が実施できた。

特に、煙体験では口にハンカチを当てることの意味がしっかり子ども達に伝わったといえる。

◇ 訓練の終わりには、消防署の御厚意で消防車の見学体験もさせていただいた。子ども達は、熱心に見たり、触ったり、質問したりしていた。



### 【課題】

- ◆ 来年度は、消火訓練を体験する計画を考案中であるが、その他にも、休み時間に災害が発生した場合、担任が不在の時に避難する必要性が生じた場合など、子ども達自身が判断して行動する経験を取り入れた避難訓練の必要性を感じている。

